

北茨城民報

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市政報告

ご相談は
お気軽に

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

市道補修に迅速対応

市建設課に
維持係独立

身近な生活道路の傷みの
通報・補修には、そこに暮
らす住民からの声が大切で
す。これを受ける窓口は、
建設課土木係があたってき
ました。それが今年度から、
維持係として分離し、身近
な生活道路の改善の受付窓
口となっています。

震災以降、大きな道路整
備事業が重なり、用地買収
などの作業が増加していま
す。また、震災による道路
の傷みや市道設備の老朽化
がすすんでいることもあつ
てか、市民からの改善要望
も増加しています。そうし
たことから、係を分け、そ

れぞれに専念して事業をお
こなようにしたものです。
これまでも随時、

市民からの声を行政
につないできた鈴木
やす子市議は次のよ
うに語っています。
「市民サービスの
向上につながる機構
改革は歓迎です。こ
の間、生活道路の改
修に関わる市民の要
望に、前向きに取り



住民の声を連絡後、すばやい対応で
陥没箇所が補修された相田川の側道。

組む行政の姿勢は評価して
います。子どもたちの通学
路の交通安全対策にも積極
的に取り組んで、改善もす
すんできた。今後、よりいっ
そう迅速な対応を期待しま
す」



ポピー

関南町の水田地帯、細い農道をすすん
だ先に、知る人も少ないポピー園が今年も出現。
きれいに咲きそろっています。(5/25撮影)

自治体病院を考える研修会

5月19日、市議有志で病
院問題の研修会に参加して
きました。テーマは、「自
治体病院の弱点!?」事
務局力」について考え
る」。講師は、砂川市立
病院事務局長の小俣憲
治氏。全国自治体病院
協議会事務長部会部会
長でもあります。ナビ
ゲーターは、伊関友伸
城西大学教授

自治体病院の課題の
ひとつに、経営には素
人の職員が携わること



があげられます。昨日まで
建設や教育等を担当してい

た職員が、突然、人事異動
で病院勤務ということが普
通におこなわれています。
しかし病院事務の仕事は、
専門的な知識とノウハウの
蓄積が必要な場所。それが
病院の経営力や競争力を大
きく左右するという視点で
のお話でした。

医事法などの法律に精通
することはもちろん、先進
医療情報も察知し、医療技
術専門職と向き合い、まと
め上げる力量が求められま
す。行政にありがちな「前
例踏襲」は病院経営には通
用しないのです。この指摘
は、これからの行政職一般
の考え方としてもあてはま
るのではないのでしょうか。

清掃センター 焼却炉新設 を中間答申

市環境整備施設等設備検
討審議会（笠井光博会長）
では、5月14日、焼却炉の
新設を提言する中間答申を
豊田稔市長に提出しました。

同審議会では、施設の検
証や将来のゴミ処分につい
て、震災前までに6回の審
議と視察を重ねてきました。
ある程度の結論がはかかっ
たところで、大震災。幸い、
その後も稼働できました。



さよなら原発

5/25、原発の可否を住民投票で決めた新潟県巻町の人々を描いた
映画「渡されたバトン～さよなら原発」の上映会が高萩市で開かれ
ました。あわせて前東海村長の村上達也氏の講演も。

震災後3年ぶりの開催と
なる審議会で、この間の報
告を受け、改めて審議をし
ました。諮問されている4
項目のうち、一点目に絞り、
中間答申をすることで一致。
その内容は次のとおりです。

「施設の老朽化が著しく
焼却炉を更新する必要がある。
。当市にとって、最良の
施設の建設を希望する。」
今後、諮問内容にもとづ
き、市長が政策判断に活か
していきます。
この審議会に加わってい
る鈴木やす子議員は、「ゴミ
処理は、毎日のことで、住
民一人ひとりにとってもま
ちづくりにとつても大きな
課題。やみくもに何でも燃
やせばよい、という時代は
終わっている。現在の焼却
炉は、老朽化を指摘されな
がら、大規模改修と継続し
たメンテナンスのやりくり
で、ここまで幸いにも大過
なく使用できている。
今後、よりいっそうごみ
を減らす方策や、循環型で
どこまで可能か、行政の財
政負担も見通しつつ、いろ
んな可能性を住民とともに
探っていきたい」と語って
います。